

学 年	教科等	単元名	日 時
第 4 学年	社会科	水はどこから	令和 6 年 7 月 12 日(金)

1 本時の目標

学習したこと等を基に、宮崎市において飲料水を安全で安定的に供給するために必要な取組を選択・判断し、表現することができる。

2 指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
1 本時の学習について話し合う。 ○ 前時までの復習 ○ 話合いのテーマの確認 宮崎市で安全な水を使い続けるために必要なことは、節水なのだろうか。 2 本時の学習について見通しをもつ。 ○ 学習の流れ ・ グループでの話合い ・ 全体での共有 ・ ふりかえり 3 テーマについてグループで話し合う。（★） ○ 自分の考えとその理由 節水が必要と考える理由（例） ・ 世界では、水が不足している国があり、節水した方がよいと本に書いてあったから。 節水以外の取組が必要と考える理由（例） ・ 節水すると水道局の収入が減ってしまうから、節水はしない方がよい。川が汚れていると薬品代が増えるから、川の水をきれいにする方がよいと思う。 等 ○ 考えを深める話合い 話合いによって考えが深まっている発言の例 ・ 水をたくさん使くと、つくる量を増やさなくてはいけなくなるから節水は必要だ。でも、汚れた水を流すと、下水処理が大変だから、その対策も必要ではないかな。 4 グループで話し合った内容を全体で共有する。 ○ グループで話し合ったこと ○ 共通していること ・ 水を大切にすること 5 本時の学習をふりかえる。 ○ 考えの再構成 ○ 考えや理由の変容とその要因 ・ 節水は必要ないと思っていたが、〇〇さんの意見に納得して、考えが変わった。 ○ ふりかえりの共有	○ 宮崎市と都城市の水道事業について確認することで、水源が異なることや、都城市の水源は地下水であるため、節水の必要があるということを想起することができるようにする。 ○ テーマについての今の考え（節水か節水以外の取組か）を全体で共有することで、仲間の考えや理由を聞いてみたいという思いをもつことができるようにする。 ○ 学習の流れや活動時間を伝えることで、全員が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 ○ 既習事項を掲示したり、授業で使用了資料を学習支援アプリに入れたりすることで、資料等を根拠として示しながら話し合うことができるようにする。 ○ 1つの考えに集約したグループには、考えの異なる人に対して、どのように説得するかを問うことで、根拠をさらに明確にしようという思いをもつことができるようにする。 ○ 考えが対立しているグループには、みんなが納得できるような考えはないかを問うことで、折衷案を生み出そうという思いをもつことができるようにする。 ○ 話合いの途中で、全体に対し、取組について具体的にどのような活動ができるかを問うことで、具体的な活動について考えたり、その活動は実現可能かを話し合ったりすることができるようにする。 ○ グループで話し合った内容を共有する場を設定することで、様々な仲間の発言や資料を確認し、ふりかえりの際に生かすことができるようにする。 ○ 取組に共通していることは何かを問うことで、水を大切にすることであると気づき、その思いを高めることができるようにする。 ○ 話合いの前後で考えや理由が変容したかを問うことで、自分の考えを再構成することができるようにする。 ○ 考えや理由の変容とその要因についてふりかえり、仲間と共有する場を設定することで、仲間の発言や資料のよさに気付いたり、自分の発言や資料を見つめ直したりすることができるようにする。

